

発掘された

# 新庄市の遺跡

令和3年9月23日(木)～10月3日(日) 新庄市民プラザ市民ロビー ギャラリートーク：9月25日(土) 14:00～14:40

## 新庄市の発掘調査

山形県北部にある最上地方の中央に位置する新庄市、現在旧石器時代から近世にかけて126ヶ所の遺跡が確認されています。県教育委員会と山形県埋蔵文化財センターによって6遺跡が発掘調査され、今回その内5遺跡を展示公開します。

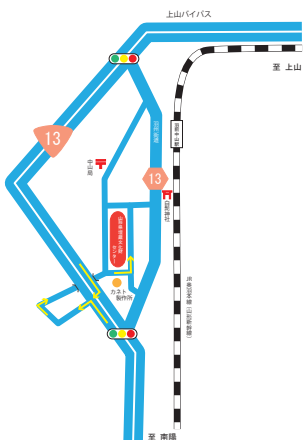
福田山A遺跡と仁間磯ノ沢B遺跡は昭和55年に新庄中核工業団地造成工事に伴い発掘調査が行われました。縄文時代早期・前期を中心とした弥生時代・古代・近世の遺構や遺物が確認されました。

立泉川遺跡は平成13年に発掘調査が行われ、縄文時代の中期から後期の土器が層状に確認できました。縄文時代中期末の東北地方南部に分布する大木10式の土器や、縄文時代後期初頭の新潟県を中心とした土器様式の三十稲葉式系統の土器などが出土しました。



## 展示遺跡

福田山A遺跡 仁間磯ノ沢B遺跡  
中川原C遺跡 立泉川遺跡 中関屋遺跡



公益財団法人  
山形県埋蔵文化財センター  
〒999-3246  
山形県上山市中山字壁屋敷 5608  
TEL:023-672-5301 FAX:023-672-5586  
HP:<http://www.yamagatamaibun.or.jp>  
E-mail:[yac@yamagatamaibun.or.jp](mailto:yac@yamagatamaibun.or.jp)



## 中川原C遺跡

いずみたがわ かわぎし

泉田川の河岸に立地する遺跡で、平成11年から12年にかけて3次にわたり発掘調査が行われました。調査では縄文時代と中世の遺構や遺物が確認されました。

特に縄文時代の生活の様子が明らかとなり、22棟もの建物跡や炉跡・土坑などが検出され、縄文時代中期前半と後期に大規模な集落が営まれたことがわかりました。また3ヶ所の捨て場からは廃棄されたと思われる大量の縄文土器や石器が出土しました。19基のおとし穴も見つかり、中には落ちた獲物を逃がさないための逆茂木が出土した穴もあります。



発掘調査風景

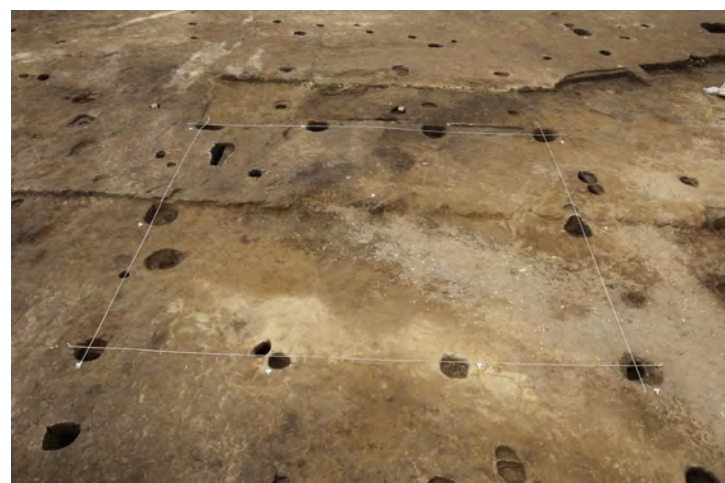


出土した縄文土器

なかせきや

## 中関屋遺跡

山形県立新庄病院改築事業に伴い令和元年に発掘調査が行われました。調査では3棟の掘立柱建物跡など、平安時代9世紀中頃から後半にかけての遺構や遺物が確認されました。集落を囲むように溝跡が巡らされた様子が確認され、これまで不明な点が多かった、新庄市内での平安時代の生活の様子が明らかとなりました。



掘立柱建物跡



発掘調査区全景